

アートで再発見!

おもしろのきたっかわ

姫路城・北エリアの魅力

グランドオープン以来、
にぎわいが絶えない姫路城。

お城が誇りの市民とはいえ、自ら足を運ぶ機会はずっと多くない。美術館や歴史博物館、文学館がある「城の北エリア」となればなおさらで、「実はもう何年も……」という人が珍しくなさそうだ。

きたっかわから見た姫路城



美 Himeji City Museum of Art
姫路市立美術館

1983(昭和58)年4月、姫路の文化の高揚と郷土作家の育成を担う美の殿堂として、歴史博物館と同時に開館しました。常設展示のほか、国内外の名品を集めた特別展示も随時開催しています。



歴 Hyogo Prefectural Museum of History
兵庫県立歴史博物館

1983(昭和58)年4月、姫路城の北東に開館。郷土の歴史に関する県民の理解を深めたり、教育や学術、文化の発展に寄与することを目的に設けられました。



文 Himeji City Museum of Literature
姫路文学館

1991(平成3)年4月、市制百周年事業の一環として開館。姫路城の北西にあって、建築家・安藤忠雄氏の設計によるユニークなデザインが古い町並みに新しい風景を添えています。

ARで
動画をチェック!

AR動画の見方はP12に掲載

ひっそりムードの城の北

城の北エリアは、いつ訪れてもひっそりしていることが多い。目立つのは観光客で、三の丸側ほどではないにせよ、思い思いに散策する姿を目にすることができ。

ガイドブックが観光客に勧めるのは、やはり美術館と歴史博物館、文学館の「アート御三家」だろうか。とりわけ有名なのが、赤レンガの美術館。もともと市役所だった建物を改装して利用しているが、さらにさかのぼると建物のルーツは、旧陸軍の兵器庫にたどり着く。

お城の歴史は500年には及ばないものの明治末期の建築となれば、それでも100年以上の昔。お城ともども、大切に保存していきたいものだ。

お城と美術館といえば、館の前庭から建物越しにそびえる大天守が、



「姫ちやり」のサイクルステーション

ところで「城の北エリア」は、姫路駅から歩くには少々遠い。路線バスの運行が頻繁にあって100円ないし170円で利用できるが、日ごとの運動不足を解消する意味でも、ぜひ体を動かしてみたいところ。

城内図書館前に並ぶ白い自転車は「姫ちやり」。2回にわたる社会実験を重ねて本格運用にこぎ着けた「コミュニティサイクル」システムだ。

コミュニティサイクルとは、利用者同士が共用する自転車のこと。すなわちキャッチフレーズどおり「みんなの自転車」ということになる。

一般的なレンタサイクルにはない「乗り捨て」ができるのはコミュニティサイクルの特長。駅前借りた「姫ちやり」を図書館前に設置されたサイクルステーションへ返却してもいい。

基本料金は、1日で100円。ただし60分以上続けて自転車を乗り回すと追加料金がかかる。

きたっかわから見た姫路城



みんなの自転車
姫ちやりで

博物館のさらに北側は、城郭研究センター。併設の「城内図書館」は市立図書館の本館にあたる。足を運べば、50万冊以上ある蔵書から好みの一冊を手にとることができそう。

赤レンガ・白壁の好コントラストを見せる。写真の題材にもピッタリでカメラを向ける人も多い。10月は、大天守の左手に夕日を入れた写真を撮るチャンスだ。建物の裏に回ると、内堀沿いに散策路が続く。見上げるように望む大天守の手前に広がる原生林の中には、見事な紅葉を見せる木々もちらほら。10月ではまだ早いですが、秋の深まりが楽しみだ。

散策路を北へたどると歴史博物館。お城の対面に張り巡らされたガラス窓に映り込む大天守が見もの一つになっている。

観光客に混じってカメラを取り出し、パチリと写すと気になるのがガラス窓の内側。あまり知られていないが、ここは博物館内で営業する喫茶店。無料で開放されている常設展示エリアの一角だから、気軽に立ち寄ってみるのもいい。今度は、ガラス越しに大天守の姿を眺めて一息つける。

近くには、美術館前にもステーションがあるので、図書館前と併せて活用できる。

「御三家」のうち二つと図書館を回ると次に目指したくなるのが、リニューアルしたばかりの「文学館」。せっかくの機会だから、公園を挟んで東西に離れてはいるものの、足を延ばしておきたい。取材時にはなかった「姫ちやり」のステーションが、早ければこの秋にも文学館前へ開設される予定だ。

そして、新文学館へ

文学館への通り道にあたる公園は「シロトピア記念公園」。市民の憩いの場という位置づけだが、やはりひっそりとしたムードが漂う。

起伏がつけられた園内には、ちょっとした丘もあって、思わぬ角度でお城を望めることもある。公園の西外れ、清水門近くには「二億円トイレ」。建設にかかったとされる費用にちなむ愛称だが、「扇観亭(せんかんてい)」が正式名称。併設されているガラス張りの休憩室もまた、お城を見上げて望めるスポットだ。トイレの近くを流れる船



上) シロトピア公園には子ども向け遊具も 中) 二億円トイレ「扇観亭」
下) リニューアルオープンした文学館北館

場川をまたいでいるのが清水橋。ここから続く通りをたどると、文学館前になる。

文学館のリニューアルでは、北館の常設展示が大きく変わった。映像やグラフィックを豊富に使い、古代から現代に至るお城の歴史や姫路ゆかりの文人たちの姿を、物語と言葉で浮き彫りにする。

入場無料の南館には、子ども向けスペースやカフェを新たに開設。雰囲気一新している。

文学館の周辺は、戦時中の空襲でわずかに焼け残ったエリア。往年の城下町らしさを感じさせる貴重な町家がちらほらある。

最近では、空き家を改装してカフェが店開きしているところも。和菓子店や老舗の豆腐店は健在だ。残暑も去って過ごしやすくなる10月は「芸術の秋」。改めて「お城の北っかわ」に注目してみるのも悪くない。